

長白山山麓のマタタビ属(中国・延辺)

― 極寒に耐えるサルナシ ―

中国・延辺大学の朴先生からの誘いで、留学生のキム君と南京農業大学に留学中の林さんと一緒に、中国東北部の中朝国境に近い吉林省・延辺朝鮮族自治州に自生するマタタビ属の現地視察に出かけました。少し山に入ると、サルナシとミヤママタタビの自生樹がそこに見られました。このあたりの冬は、マイナス30度以下に下がることも普通ですが、サルナシやみやまタタビは、問題なく耐えられるようです。折角なのでということで、長白山(二七四四m)に登ることになりました。バスと専用車両を乗り継いだ後、しばらく徒歩で頂上へ。カルデラ湖の対岸は北朝鮮。壮大な景観に、中朝の朝鮮民族の聖山とされる所以を実感しました。耐寒性が強く、様々な健康に良い成分を含むサルナシを有効に活用するため、この一帯の自生樹からの優良系統の選抜や効率的な栽培方法の研究が進展しているようです。

二〇〇七年九月一日

